

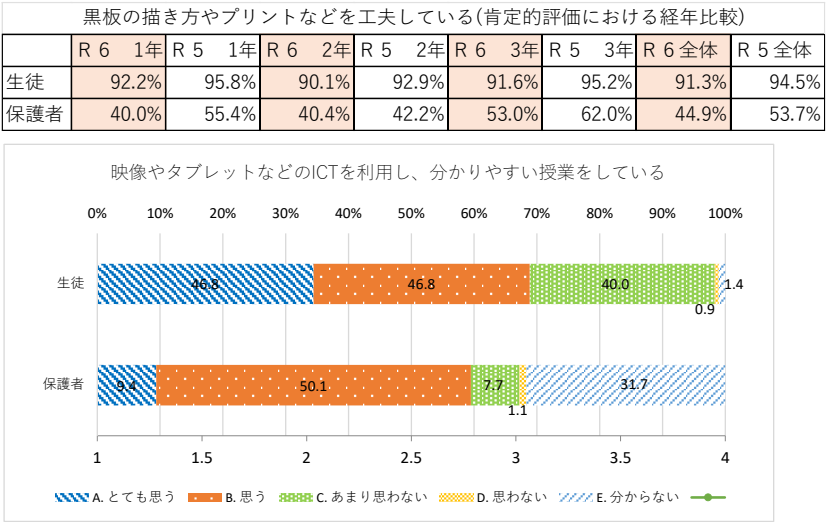
令和 6 年度 学校関係者評価アンケートの集計と考察

世田谷区立千歳中学校
学校関係者評価委員会
委員長 福田 由香里

学校関係者評価を下記にまとめましたのでご報告いたします。
今回の評価結果を次年度の学校経営にご活用いただき、千歳中学校がなお一層発展されることを祈念いたします。

【調査結果の概要】
回収率は56.7%でした。アンケートにご協力いただきましたみなさまにお礼を申し上げます。
回収率についてはリマインドの適切な頻度を模索しており、今後の課題として共有しました。
調査結果は全体的に高評価を感じられました。

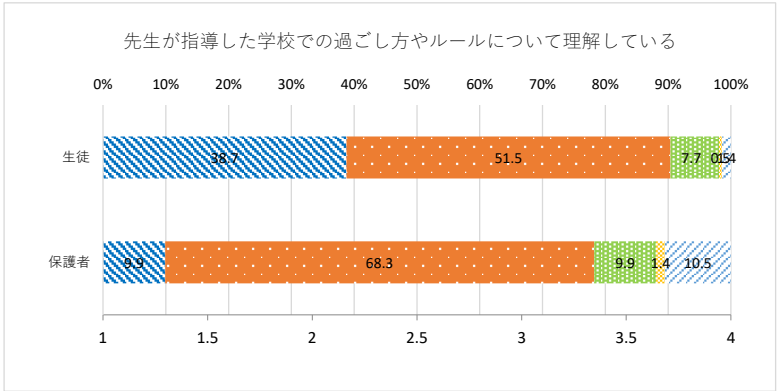
◇学習指導について



【考察】

全学年通じて昨年度より肯定的評価が下がっていることが気になりましたが、授業での板書はiPadに大部分移行しているとのことでした。タブレットなどの利用についての項目からも、授業で活用されていることが伺えます。一方で、iPadなど情報端末が必要不可欠な教材となればなるほど、端末の扱い方、情報の共有方法、情報の制限についてやデジタル依存など、家庭・学校共に今後の課題であると感じました。

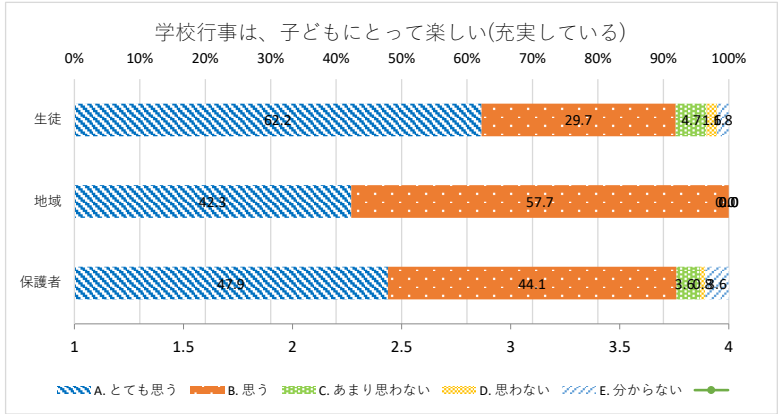
◇生活指導について



生徒・保護者共に肯定的評価が高く、生活指導が行き届いていることが感じられます。その一助として「たすき」の共通言語が集団での生活や指導において、非常に効果的に働いていることが伺えました。

『た・す・き』(大切にする・素直正直・気付く)

◇学校行事について

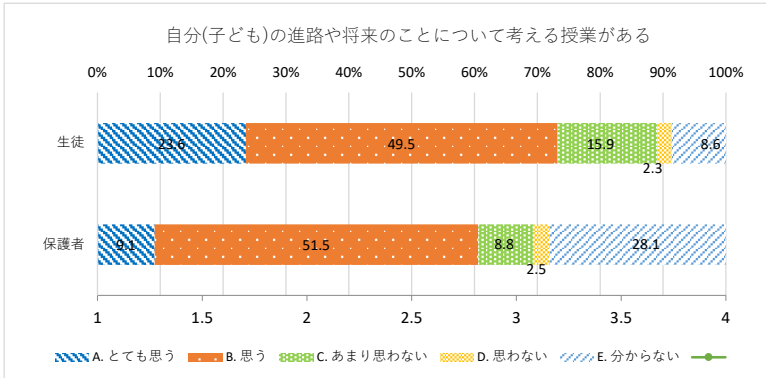


生徒・地域・保護者の3者いずれも肯定的評価が高く、親子共に積極的に行事へ関わる姿勢、また地域にも告知が行き届いていることが伺えます。
また、生徒の成長を考えた教員の工夫や熱意も大変感じられます。しかしその反面、教員への負担も懸念され改善が必要な部分もあると思いました。

◇キャリア教育について

自分(子ども)の進路や将来の仕事について、考える授業がある(肯定的評価における経年比較)

	R 6 1年	R 5 1年	R 6 2年	R 5 2年	R 6 3年	R 5 3年	R 6 全体	R 5 全体
生徒	50.8%	90.5%	82.6%	76.3%	87.4%	76.0%	73.1%	81.2%
保護者	46.6%	52.5%	70.7%	68.4%	64.9%	62.6%	60.6%	61.9%



【考察】

2年3年の肯定的評価が昨年より上昇しています。(R6 1年はキャリア教育前のアンケートでした)

職場体験などを通して自身の将来について考える機会が得られていることが伺えます。

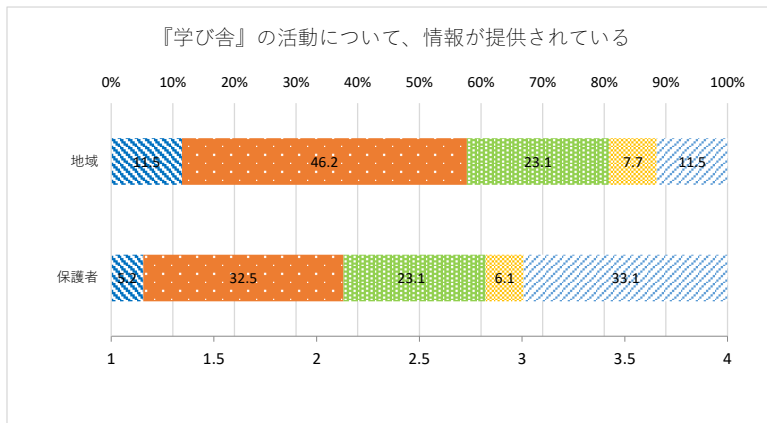
今年度は卒業生から話を聞く機会も設けられているとのこと。今後はもっと近い未来についても考える機会を増やすことや、キャリアパスポートを活かし小中高とつながりのあるキャリア教育がなされると良いなど、活発な意見が出ました。

◇地域との連携について

生徒：学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある(肯定的評価における経年比較)

保護者：「学び舎」の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている(肯定的評価における経年比較)

	R 6 1年	R 5 1年	R 6 2年	R 5 2年	R 6 3年	R 5 3年	R 6 全体	R 5 全体
生徒	30.6%	21.1%	36.1%	18.5%	31.6%	25.3%	32.6%	21.2%
保護者	34.2%	37.3%	38.6%	35.3%	40.3%	40.6%	37.7%	38.1%



「学び舎」については、今年度近隣の小学校3校を対象に講座を開設しました。生徒達はお手伝いをする事で小学生との交流を行いました。そのため昨年度と比較して大幅に肯定的評価が高まりました。

しかし、まだ割合としては低いことと、地域・保護者の肯定的評価も半分～半分以下に留まっています。9年教育の活動を知っていただける情報共有・連携を模索する必要があると感じました。

【まとめ】

アンケート結果から多くの教員が学校を良くしようと熱意をもって取り組み、また生徒たちがそれを受けて前向きに集団生活を送り、学習している様子を感じ取ることができました。しかし、今の良い状態を維持しつつ働き方改革始め、部活動の地域移行など変化に対応していくには課題が多いことも確認されました。親は子どもの年齢が上がるにつれ学校の様子が分からない・見えないとなりがちですが、学校・保護者・地域の連携を大切にしていくことが生徒たちのより良い学習環境に繋がるのではないかと改めて感じました。

そういった意味でも、地域・保護者・卒業生などの有志からなる「千歳中サポーター」は、行事支援、学習支援の充実にむけ今後もっと広まってくると良いと思いました。また、学校に来ることが難しい生徒の居場所としてほっとルーム、ホットスクールや地域の方が児童館で開催している活動など多くあることを今回の考察の場で知ることができ、まずは知ること、繋がっていくことが連携への第一歩になるのではないかと感じました。